

八幡浜市子ども読書活動推進計画〈第二次〉

八 幡 浜 市

第1章 子どもの読書活動推進の趣旨及び基本計画

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の対象と期間

第2章 子どもの読書の現状等

- 1 保育所・幼稚園
- 2 小学生
- 3 中学生
- 4 小中高等学校

第3章 子どもの読書活動を推進するための方策

- 1 家庭・地域における子ども読書活動の推進
 - (1) 役割
 - (2) 現状と課題
 - (3) 今後の方向
- 2 保育所・幼稚園における子ども読書活動の推進
 - (1) 役割
 - (2) 現状と課題
 - (3) 今後の方向
- 3 学校における子ども読書活動の推進
 - (1) 役割
 - (2) 現状と課題
 - (3) 今後の方向
- 4 図書館における子ども読書活動の推進
 - (1) 役割
 - (2) 現状と課題
 - (3) 今後の方向

第1章 子どもの読書活動推進の趣旨及び基本計画

1 計画策定の趣旨

子どもの成長段階において、読書活動は子どもたちの豊かな人間形成に大きな影響を与えます。しかし、現代の高度情報化社会におけるメディアの多様化は、子どもたちの成長にもさまざまな影響を与えており、「読書離れ」が指摘され、懸念されています。

国は平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定しました。その法律の基本理念やその遂行に関する国や地方公共団体（県や市）、保護者、学校、公立図書館等の責務などを明らかにするとともに、毎年4月23日を「子ども読書の日」とすることを決定しました。また、翌年の平成14年8月には、「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を閣議決定し、子どもの読書活動の推進の基本的方針、方策、必要な事項などを示しました。その後、平成20年に第二次計画、平成25年に第三次計画が策定され、社会情勢や環境の変化、前計画の成果と反省を踏まえた見直しが図られています。

愛媛県においても、子どもの読書活動の推進に関する法律第9条の規定に基づき、平成16年3月に「愛媛県子ども読書活動推進計画」が策定されました。その後、平成21年に第二次、平成26年に第三次計画が策定され、読書活動の推進が図られています。

これらの取組を受けて、八幡浜市では平成21年に「八幡浜市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動の推進に取り組んできました。計画期間は平成25年まででしたが、それらの成果と課題を踏まえて、明日の八幡浜市を担う子どもたちが健やかに成長するため、さらなる読書環境の充実を目指して第二次計画を策定するものです。

2 計画の対象と期間

この「八幡浜市子どもの読書活動推進計画」は0歳から概ね18歳までの子どもを対象とし、期間は平成28年4月～平成33年3月までの5年間とします。

第2章 子どもの読書の現状等

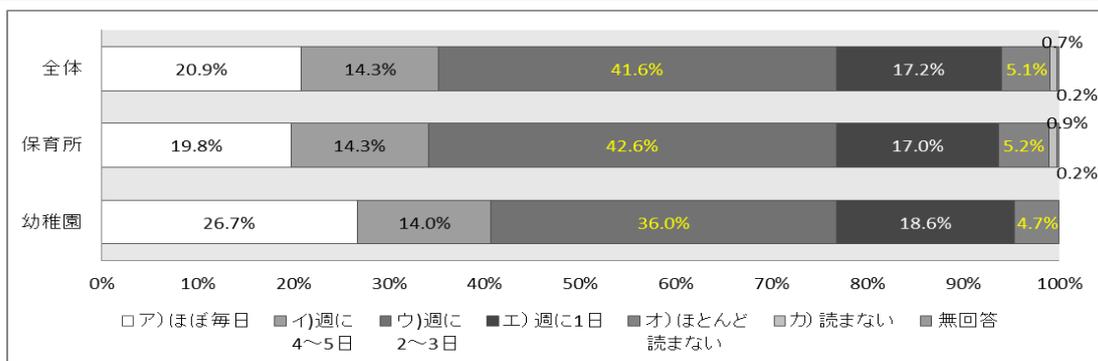
第二次計画を策定するにあたり、八幡浜市内での子どもの読書現状把握のため、平成27年7月にアンケートを実施しました。詳細は参考資料として添付しています。

1 保育所・幼稚園（アンケート回答・546枚（保育所460枚・幼稚園86枚））

本を読む（聞く）のが好き	本を読む（聞く）のが好きではない	どちらともいえない
505（92.5%）	33（6.0%）	8名（1.5%）

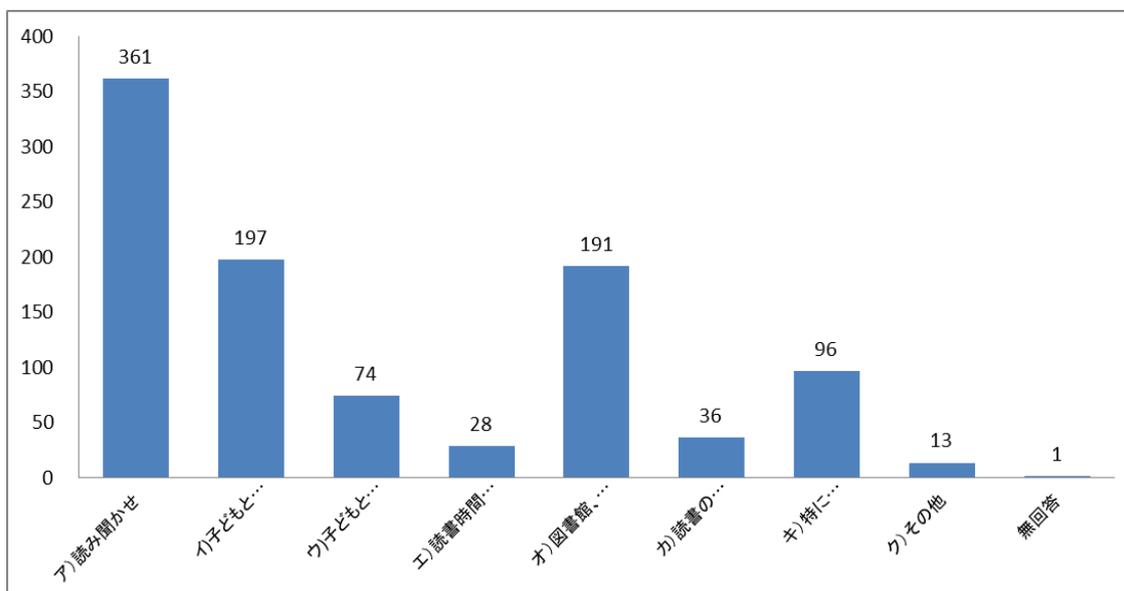
一週間で読む頻度

ア) ほぼ毎日	イ) 週に 4～5日	ウ) 週に 2～3日	エ) 週に 1日	オ) ほとんど 読まない	カ) 読まない	無回答
114 (20.9%)	78 (14.3%)	227 (41.6%)	94 (17.2%)	28 (5.1%)	4 (0.7%)	1 (0.2%)



読書を促すための家庭での取組（複数回答可、無回答 1）

ア) 読み聞かせ	イ) 子どもと一緒に読書	ウ) 子どもと同じ本を読書	エ) 読書時間の設定
361	197	74	28
オ) 図書館、書店へ行く	カ) 読書の感想を聞く	キ) 特にしていない	ク) その他
191	36	96	13



乳幼児期においては、親の語りかけと触れ合いにより、子どもは少しずつ言葉を習得し、さまざまな感情を体験しながら成長していきます。子どもが絵本等と出会ううえで読み聞かせ等の体験が重要です。

今回のアンケートでは、ほとんどの家庭で子どもが本を読んだり聞いたりす

ることが好きであると回答しています。家庭でも週一日以上読書に触れる機会があり、読み聞かせを行うなど本に親しむ環境ができていると言えます。

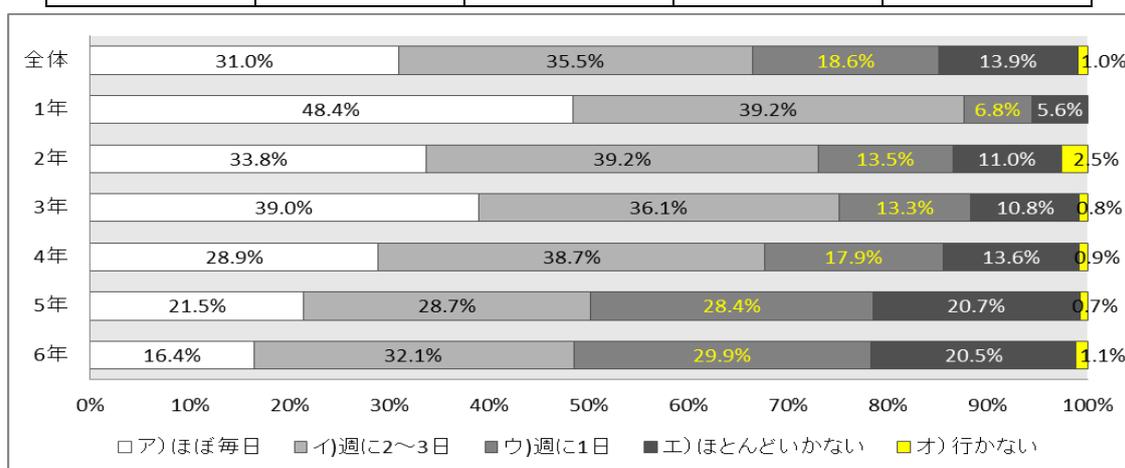
市立図書館の利用カードは0歳から作成することができますが、作成している人は少ないようです。「ブックスタート」でのアンケートでも「子どもが声をあげるから行きづらい」といった意見をよく聞くのでさらに足を運びたくなるような工夫が必要です。

2 小学生（アンケート回答 1,514名）

本を読むのが好き	本を読むのが好きではない
1,278名（84.4%）	236名（15.6%）

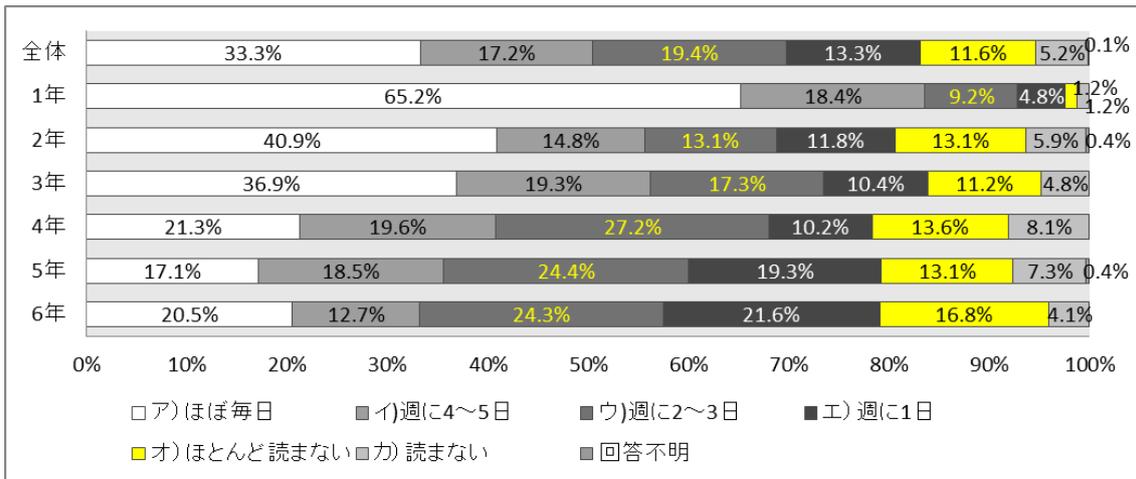
学校図書館の利用

ア) ほぼ毎日	イ) 週に2～3日	ウ) 週に1日	エ) ほとんど行かない	オ) 行かない
469名 (31.0%)	537名 (35.5%)	282名 (18.6%)	211名 (13.9%)	15名 (1.0%)



一週間で読む頻度

ア) ほぼ毎日	イ) 週に4～5日	ウ) 週に2～3日	エ) 週に1日	オ) ほとんど読まない	カ) 読まない	回答不明
504名 (33.3%)	260名 (17.2%)	293名 (19.4%)	201名 (13.3%)	175名 (11.6%)	79名 (5.2%)	2名 (0.1%)



小学生になると、生活圏の広がりとともに読書に興味や関心を持ち始め、読書が未知の世界へと誘ってくれます。本に親しむことによって、語彙が豊かになり、想像力や思考力も育っていきます。

今回のアンケートでは8割を超える児童が、読書が好きであると回答しています。また週に一度以上はマンガ以外の読書に触れていることがわかります。

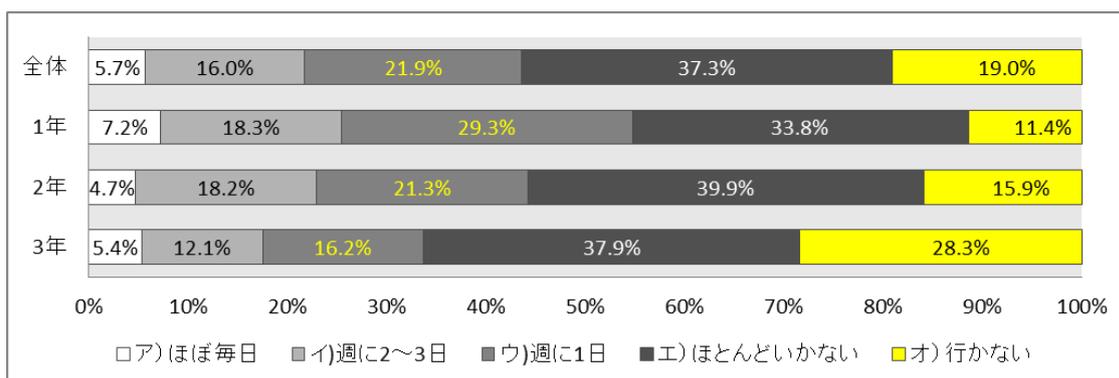
しかし、学年別にみても、6割以上がほぼ毎日読書をしていた1年生に対し、6年生になると2割程度となり、学年が上がるにつれ読書頻度が減っています。これは学校図書室の利用にも同じことが言えます。ただ行動範囲が広がる高学年になるにつれ公共図書館の利用割合が増えてきています。

3 中学生（アンケート回答 873名）

本を読むのが好き	本を読むのが好きではない	無回答
667名 (76.4%)	204名 (23.4%)	2名 (0.2%)

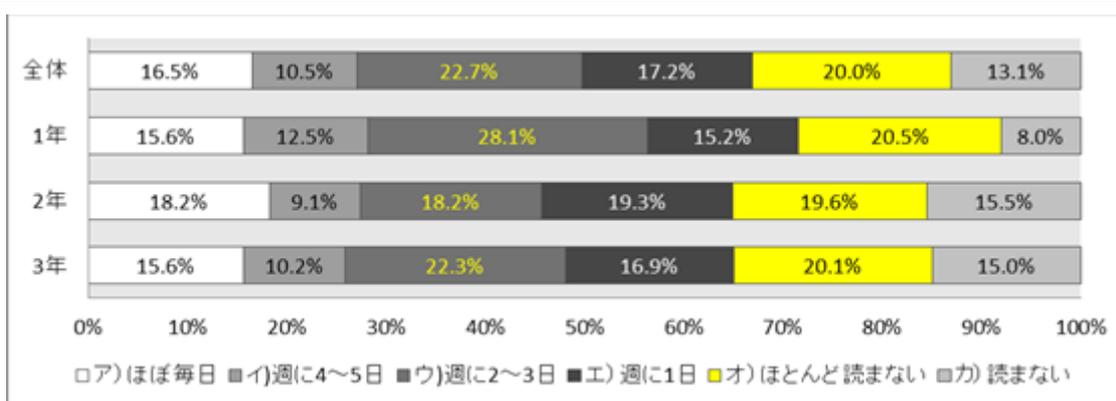
学校図書館の利用

ア) ほぼ毎日	イ) 週に2~3日	ウ) 週に1日	エ) ほとんど行かない	オ) 行かない
50名 (5.7%)	140名 (16.0%)	191名 (21.9%)	326名 (37.3%)	166名 (19.0%)



一週間で読む頻度

ア) ほぼ毎日	イ) 週に4~5日	ウ) 週に2~3日	エ) 週に1日	オ) ほとんど読まない	カ) 読まない
144名 (16.5%)	92名 (10.5%)	198名 (22.7%)	150名 (17.2%)	175名 (20.0%)	114名 (13.1%)



中学生・高校生の世代になると、読書の範囲も広がります。それとともに広い視野に立った図書を選択もできるようになり、読書を通しての独自の価値観の形成や自己との対話も可能になってきます。

今回のアンケートでは、中学生のみの結果ですが7割を超える生徒が、読書が好きであると回答しています。しかし読書頻度は小学生よりも減少しており、「読まない」と回答した生徒の割合も小学生の2倍でした。また、学校図書室の利用の低下が目立っており、公共図書館の利用も半数程度にとどまっています。公共図書館の世代別貸出割合も中高生は低くなっています。

4 小中高等学校（アンケート回答 小学校12校、中学校7校、高等学校3校）

学校図書館専任職員配置状況

小学校	0校 (0%)	中学校	0校 (0%)	高等学校	0校 (0%)
-----	---------	-----	---------	------	---------

朝読書実施状況

小学校	11校(91.7%)	中学校	7校(100%)	高等学校	3校(100%)
-----	------------	-----	----------	------	----------

読み聞かせ実施状況

小学校	12校(100%)	中学校	2校(28.6%)	高等学校	1校(33.3%)
-----	-----------	-----	-----------	------	-----------

今回のアンケートで、朝読書はほぼすべての学校で実施、読み聞かせは小学校では全校実施しており、各学校の読書推進のための行事も多く開催されているようです。しかし、専任の学校図書館職員配置はなく、司書教諭の配置はあっても専任ではないため図書館運営が難しい面が多いと考えられます。今後、専任の学校図書館職員の配置が望まれます。

第3章 子どもの読書活動を推進するための方策

1 家庭・地域における子ども読書活動の推進

(1) 役割

①家庭

子どもの読書習慣を育てるためには、家庭での読書環境の充実や働きかけが大切です。日常生活を通して子どもが自然に読書に親しめるような工夫が必要になります。

②公民館

各地区で子育てサロンが設立されており、図書館や読み聞かせボランティアと連携することで市立図書館が身近ではない地区の読書推進の中継点としての役割が期待できます。

③地域子育てセンター

未就園児対象の子育てセンターでは、親子のふれあい行事や育児相談などが実施されています。心の発達に重要な乳幼児期に親との読み聞かせ体験を積み重ね、家庭での読書習慣づくりの形成に果たす役割は大きいと思われます。

(2) 現状と課題

アンケート結果からもわかるとおり、乳幼児を抱える多くの家庭では読書に親しむ工夫をしています。しかしながら、小学生、中学生になるにつれ読書頻度が減少しています。文部科学省の平成16年度「親と子の読書活動等に関する調査」で保護者の読書活動が子どもの読書活動に影響を及ぼすこともわかっており、子どもの自主性に任せるだけでなく、保護者の子どもへの読書活動推進の取組についての啓発と支援が必要です。

各地区の子育てサロンでは、地区によって定期的にボランティアによるおはなし会を行うなどの読書推進活動を行っています。今後もこれらを継続し、全ての地区公民館へ広げていくことが必要になります。

地域子育てセンターでもボランティアによる定期的なおはなし会を実施しています。今後もこれを継続するとともに図書館との連携を図り、絵本を通した親子の触れ合いの機会を増やし、魅力や楽しさを伝え支援していくことが求められます。

(3) 今後の方向

- 読み聞かせ、親子読書、親子感想交流、週末読書など、子どもや家庭の実情に合わせて、読書習慣づくりに取り組んでいきます。
- 子育て支援に関する講座及び市立図書館で行うイベントに積極的に参加し、親子で読書に親しむ機会を作り、家庭読書へとつなげていきます。
- 家庭での読書習慣づくりをPTA活動の一つとして取り組んでいきます。

2 保育所・幼稚園における子ども読書活動の推進

(1) 役割

保育所・幼稚園では、読み聞かせなど本に親しむ活動を日常に取り入れるとともに、家庭同様子どもたちが自然に読書に親しめる環境づくりが必要です。また保護者への働きかけも必要になります。

(2) 現状と課題

保育所・幼稚園では、絵本の読み聞かせや、定期的な絵本の貸出など、親子読書活動推進に努めています。

(3) 今後の方向

- 子どもが本に親しめるよう定期的な読み聞かせを継続します。
- 購入もしくは図書館貸出を利用して、所内・園内での絵本を増やし、環境を充実させます。
- 絵本が子どもの心の成長に重要であることを保護者に啓発し、家庭での読書活動も推進していきます。

3 学校における子ども読書活動の推進

(1) 役割

学校は、子どもたちに読書の楽しさや意義を伝える場であり、子どもたち同士が読書について話し合い、刺激し合うことができる場でもあります。特に読書習慣のない子どもや、近所に図書館がないなどの読書環境に恵まれない子どもにも大きな影響力を持っています。

学校教育法第 21 条 5 に、「読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解

し、使用する基礎的な能力を養うこと。」とあるように、義務教育の目標の一つとして読書推進が規定されています。

(2) 現状と課題

各小・中学校の学校図書館主任で構成されている学校図書館部会では、読書感想文コンクールや読書感想画コンクールを実施するなど、日常の読書指導の充実を図るための研修を深めています。

各学校においては、学校図書館の蔵書の充実、図書委員会などの児童会活動及び生徒会活動の実践、司書教諭と担任が連携した読書指導やさまざまな教科での図書利用の拡充、朝の読書時間の設定などにより、読書習慣の定着に努めています。

アンケートによれば、学校図書館の利用についてほぼ毎日利用している小学生は全体の 31.0%ですが、中学生になると 5.7%に激減します。一方、利用していない小学生は、全体の 1.0%であるのに対し中学生は 19.0%にのびります。図書室の開室時間と利用頻度の因果関係は見られませんでした。利用頻度は学校間にばらつきがある現状です。学校ごとの格差是正と読書環境の底上げをし、図書室を全く利用しない子どもへの利用推進が課題としてあげられます。また障がいのある子どもへの読書機会の充実を図ることが望まれます。

(3) 今後の方向

- 学校と市立図書館の連携を図り、団体貸出制度など図書館サービスを利用して読書環境の充実に努めます。
- 学校における計画的な図書の整備を行い、図書基準の達成だけでなく内容の積極的な刷新を行うことで蔵書の充実を図ります。
- 学校図書館支援制度を新設し、学校図書館司書教諭や学校図書館担当教諭の指導のもとに専任の支援員を配置して、蔵書のデータ化を進め、研修を行うなどの人材育成にも努めます。
- 障がいのある子どもに市立図書館の録音図書、点字絵本・図書を活用するなどして読書機会の充実を図ります。
- 週に一度も読書をしない小学生の 5.2%、中学生の 13.1%の層を減らしていくようにします。

4 図書館における子ども読書活動の推進

(1) 役割

市立図書館は八幡浜市の読書活動推進の中核施設であり、生涯学習施設として全ての世代への読書活動を推進することが求められます。その中でも読書活動の入口といえる子どもへの読書活動は、より積極的に推進していく必要があります。

(2) 現状と課題

市立図書館ではこれまで子どもたちの読書環境の充実を図ってきました。まず、学校教科書掲載図書の整備を含めた児童書の充実を図り、表1のように、児童書数・児童書保有率とも伸びています。

表1 児童書保有数

		年度	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26
市民 図書	蔵書数		165,239	168,856	172,739	174,385	176,404
	児童書数		40,067	40,900	42,149	42,835	43,988
	児童書保有率		24.2%	24.2%	24.4%	24.6%	24.9%
保内 図書	蔵書数		84,199	86,044	88,364	88,802	90,123
	児童書数(YA含む)		29,498	30,545	31,242	32,102	32,873
	児童書保有率		35.0%	35.5%	35.4%	36.2%	36.5%

また、季節や話題に沿った展示コーナーや調べ学習コーナーを設けるなど、子どもが本を手取るきっかけづくりを積極的に行ってきました。

次に、子どもの発達・成長段階に応じた読書活動支援を行ってきました。読み聞かせボランティアグループとも協力して、定期的に未就園児を対象としたおはなし会や、市内小中学校へ出向いての読み聞かせを継続的に実施しており、読書の楽しさを伝えています。おはなしボランティアの技術向上、育成のため、毎年、養成講座も開催しています。また、それに伴って大型絵本の充実、団体貸出の増加にも努めています。そのほか読書週間行事やブックスタート事業、読書マラソン等を実施してきました。平成26年度からは司書が各学校に出向く「ブックトーク派遣事業」も開始しています。

しかし、次のような課題があります。

● 子どもの市立図書館の実利用人数は、表2のように少しずつ減少しています。更に表3のとおり年齢が上がるにつれ利用割合も減少しています。（*市立図書館統計「地区-年齢別登録者統計」による）今後は年齢とともに読書離れが進むのをいかに食い止めるかが課題です。

表2 八幡浜市実利用人数

年度	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26
18歳以下	1,919	1,662	1,598	1,561	1,486

*年間で同じカードを何度使用しても1としてカウント

表3 平成25年度年齢別利用率

平成25年度	1年間で利用の あったもの	人口 (H25.3.31)	利用割合
6歳以下	286	1,562	18.3%
7～9歳	411	768	53.5%
10～12歳	453	851	53.2%
13～15歳	264	942	28.0%
16～18歳	157	1,010	15.5%
合計	1,571	5,133	30.6%

● 団体貸出冊数は、表4のとおり平成24年度から着実に伸びていますが、団体貸出によって子どもたちの元に届く図書の数は、平成26年度で児童書数の約4%です。今後更に、利用者(団体)を広げるなど図書館団体貸出の

表4 団体貸出利用 *図書館、相互貸借は除く

年度	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26
市民図書館	876	510	811	1,311	1,152
保内図書館	832	951	1,145	1,125	1,990
合計	1,708	1,461	1,956	2,436	3,142

利用促進に努める必要があります。

● 図書館から遠い学校の児童生徒の図書利用カードの登録率が低く、50%以下の学校が小中学校合わせて4校あります。（表5参照）

また、この1年間の移動図書館の利用者は、平成27年度子ども読書活動調査結果によると小学生71名、中学生17名とあまり多くはありません。しかし、表5のとおり、ステーションとなっている地区に在住の児童生徒のうち、利用カード登録をしている児童生徒の約30%～45%が移動図書館を利用しており、当該児童生徒にとって移動図書館が読書に触れる大切な場となっています。

今後も、市立図書館にある児童書が多く貸し出され、より多くの子どもたちに利用されるようさまざまな角度からの工夫、努力が必要です。

表5 市内小中学生の市立図書館利用カード登録者数及び利用図書館

小学校		小全体	松蔭	白浜	江戸岡	神山	千丈	日土	真穴	川上	双岩	喜須来	川之石	宮内
利用カード保有	ア 有	947	95	134	91	120	68	37	18	14	25	81	90	174
	イ 無	567	35	67	57	101	77	23	26	24	21	57	24	55
児童数(ア+イ)		1,514	130	201	148	221	145	60	44	38	46	138	114	229
利用カード登録率(ア/ア+イ)		62.5%	73.1%	66.7%	61.5%	54.3%	46.9%	61.7%	40.9%	36.8%	54.3%	58.7%	78.9%	76.0%
利用図書館	ウ 市民	635	100	132	85	126	78	19	9	13	22	11	11	38
	エ 保内	528	12	37	34	29	22	31	4	6	14	79	81	179
	オ 移動	71	1	8	6	5	20	1	8	4	4	1	5	8
市民利用率(ウ/ア)		67.1%	105.3%	98.5%	93.4%	105.0%	114.7%	51.4%	50.0%	92.9%	88.0%	13.6%	12.2%	21.8%
保内利用率(エ/ア)		55.8%	12.6%	27.6%	37.4%	24.2%	32.4%	83.8%	22.2%	42.9%	56.0%	97.5%	90.0%	102.9%
移動利用率(オ/ア)		7.5%	1.1%	6.0%	6.6%	4.2%	29.4%	2.7%	44.4%	28.6%	16.0%	1.2%	5.6%	4.6%
中学校		中全体	愛宕	八代	松柏	真穴	双岩	保内	青石					
利用カード保有	ア 有	607	118	174	87	8	22	122	76					
	イ 無	265	22	88	38	20	12	58	27					
生徒数(ア+イ)		872	140	262	125	28	34	180	103					
利用カード登録率(ア/ア+イ)		69.6%	84.3%	66.4%	69.6%	28.6%	64.7%	67.8%	73.8%					
利用図書館	ウ 市民	340	83	125	73	8	9	28	14					
	エ 保内	184	13	10	2	1	6	116	36					
	オ 移動	17	2	7	1	3	2	2	0					
市民利用率(ウ/ア)		56.0%	70.3%	71.8%	83.9%	100.0%	40.9%	23.0%	18.4%					
保内利用率(エ/ア)		30.3%	11.0%	5.7%	2.3%	12.5%	27.3%	95.1%	47.4%					
移動利用率(オ/ア)		2.8%	1.7%	4.0%	1.1%	37.5%	9.1%	1.6%	0.0%					

(3) 今後の方向

- 子どもの市立図書館の利用、図書貸出冊数が増えるような手立てを講じます。
 - ・ 子どもの読みたい気持ち、調べたい気持ちに十分応えられるような蔵書構成を目指します。
 - ・ 図書の配架や表示の工夫などを行い、子ども自身、また子どもと保護者が利用しやすく楽しむことのできる魅力あるコーナーの整備工夫に努めます。
 - ・ YAコーナーについて、保内図書館では一層の充実に努めます。また、

市民図書館では新設をし、読書離れ、図書館離れになっている中学生・高校生に対して、もっと図書館を有効に利用してもらうことを目指します。

- ・ 八幡浜市立図書館利用カードを持つ子どもは小学生 62.5%、中学生 69.5%です。市内の小中学生の利用登録 100%となるよう子ども・学校・保護者に働きかけます。
 - ・ 学校をはじめとする関係機関・施設への団体貸出を促進するために、資料を整備するとともに制度の周知に努めます。
 - ・ 図書館から遠くに住む子どもたちが移動図書館を利用できるよう、広報活動や蔵書を工夫します。
- 子どもが読書に親しんだり、興味・関心を広げたりする機会を提供します。
- ・ 保護者と子どもをつなげる活動の一つであるブックスタート事業及びフォローアップ事業を、保健センターと連携・協力して継続して行い、本に触れ、親しむ機会を提供します。
 - ・ 読み聞かせやおはなし会を開催し、本の楽しさを知ることができるよう働きかけます。
 - ・ ブックトーク派遣事業など、図書館職員が積極的に学校等に赴くことにより、子どもたちが新しい本と出会ったり、本に興味・関心を広げたりする機会をつくれます。
- おはなしボランティアグループの技術向上や人員確保のため、講習会を開催します。また、ボランティアが効果的に活動できるよう支援を図ることに努めます。
- HPや八西CATVでの情報内容を定期的に見直し、充実した情報を届け、図書館への興味を刺激します。
- 読書通帳を発行し、本を手取るきっかけをつくり図書館利用促進につなげるよう検討します。